

令和元年度タウンミーティング会議録

期 日	令和元年7月5日(金) 14:00~15:45
会 場	大洗町商工会館 講習会等研修室
対 象 者	子育て・青少年健全育成, 交通・防犯関係 (社会教育委員会・青少年相談員・防犯連絡員協議会・安協・安管・PTA連絡協議会・ひじり保育園・ひじり保育園父母の会・こすもすくーる・祝町幼稚園・祝町幼稚園PTA・大洗かもめ保育園・第一保育所・第一保育所PTA・明石保育園・すくすく・こどもの城・大洗高等学校・一中・南中・大洗小・南小)
町 執 行 部	町長, 副町長, 町長公室長, まちづくり推進課長, 都市建設課長, 生涯学習課国体推進室長, 生活環境課長, 税務課長, 住民課長, 生涯学習課長, 教育次長兼学校教育課長, こども課長, 健康増進課長, 総務課長, 福祉課長, 上下水道課長, 商工観光課長
出 席 者	34名

町民： ・ 幼稚園での預かり保育について父兄からの要望が強い。今後、保育料の無償化が始まると、保育園にユーザーが流れる恐れがある。祝町幼稚園は良い幼稚園なので、このまま幼稚園が継続してほしい。そのためにも、預かり保育についても考慮していただきたい。

教育次長兼学校教育課長：

- ・ 現在幼稚園に通われている保護者からの要望が強いということを受け止めさせていただき、今後保育料無償化が10月から始まるタイミングをみて検討させていただきたい。

町民： ・ 幼稚園の預かり保育について、保育料が無償化になった場合にどうなるかということは県から説明があったと思うが、仕事を持つ人に関しては預かり保育を実施し、その場合には預かり保育の料金を取るといわれている。仕事を持たない人の預かり保育は無償化の対象にならないという説明があったと思うがどうか。

こども課長：

- ・ お話のとおり仕事を持たない人の預かり保育は有料となる。そのあたりも検討しながら進めていきたい。

町民： ・ 有料になるばかりではなく、仕事を持つ人しか利用できないということだと思うが。

こども課長：

- ・そのとおりで無償化の対象は保育の必要性があると認定される必要がある。

町民： ・そのあたりはもう決定しているのか。

町民： ・国の制度のため決定している。

町民： ・有料でもいいという声もあるので、検討をよろしくお願ひしたい。

- 町民：
- ・少子高齢化人口減社会はどの市町村でも同じだが、大洗はそれよりも早く少子化人口減が進んでいると思う。昭和30年代は23,000人くらいだった人口がどんどん減り現在は15,000人を切るという状況になっており、これから5年後10年後20年後先の大洗がどのような町になっているのか見えない。町の計画として、未来の大洗がわかるような将来見通し、ビジョンのようなものが見えるといい。
 - ・国体の協力依頼団体に幼稚園は記載されているのに保育園が記載されていない。学校等の中に含まれているのかもしれないが、パネルの作成なども頼まれており保育園も協力しているので、そのことも頭にいれておいてほしい。

まちづくり推進課長：

- ・町では今、総合戦略を策定している。人口減は厳しく、大洗町でも同様に減っていく状況であるため、それを食い止めるための施策に取り組んでいる。しかし、20年後30年後は勿論のこと、10年後でさえどのような将来になっているかは正直誰にもわからないものであると思うが、10年後のように比較的近い将来のビジョンについては示せるよう、総合計画などを策定するなかで、そういった視点も入れられるよう検討させていただきたい。

生涯学習課国体推進室長：

- ・園長先生からの指摘について、この度の資料で記載が洩れてしまい大変申し訳ない。実際には町内の各保育園には様々な形でご協力いただいている。先日も装飾用のパネルの作成を園児のみなさんにお願ひしたり、園に訪問しPRをさせていただいたりもした。また、国体ダンスにも取り組んでいただいております、非常に感謝している。今回の件は本当に申し訳なかったが、今後ともご協力の程よろしくお願ひしたい。

- 町民： ・ 今からは市町村間競争である。どうやって他の市町村に勝つ政策を出せるか、魅力度を出せるかが大切であるため、他と同じことをしていたら負けてしまう。大洗は年間70人程度しか生まれておらず、合計特殊出生率も国や県の平均より低い。そのあたりも踏まえ施策のなかに入れてほしい。
- 町長： ・ 人口減が急速に進んでいくだろうと言われているなかで、これに対しどのような手を打てるかというのはまず国策としてしっかり考えなければならず、各自治体が小手先で対応しても思うようにいかないのが現実であると思う。地域間競争において、大洗は発展的基盤が整い交流人口も拡大しているため、そうした環境にないところと比較して勝ち抜けないということはないと思う。そうした環境にないところからみれば、大洗は勝ち抜ける歩みを行っている。町に今生きている人たちが将来に対応していくためにも、色々な業を起こしたり地域を元気にするためのエネルギーを強めたりすることが求められる。行政は環境づくりに力を入れてきているため、並行してエネルギーを強められるようなアイデアをみんなで行うことが求められる。地域の潜在力だけで対応できないのであれば、新たな血を入れる必要があると考えられる。
- 大洗は港のある豊かな海浜文化都市として内容を強めることに力を入れていくことで、生き抜いていくことができると考えている。行政はそのようなところに力をいれているので、町民の皆様にも機会があるたびにそうした方向性についてご理解をいただき、力を注いでいただけるようお願いしているところである。
- ・ 出生率について、大洗に生まれ育っても高校は水戸に、大学は東京などの大都市に行き、大学を卒業するとその地域で就職し結婚するなど大洗に戻ってこないことが多く、女性の流出も多い。そのため大洗は出生率が低い。それをどうにかするために、大学後も大洗に戻り職に就ける、働く意義を感じられるような環境づくりを行い、町の総合力を強めることが大切であり、そのための取り組みを行っている。大洗はそのようなところを評価される機会はあるが働く場の問題があるため、新たな業を起こしたり新たな企業を立地したり努力している。そのために、そういう趣旨に立って桜井さんにもお力添えいただきたい。
- 町民： ・ 最近観光客が神磯の鳥居の近くの灯台も写真に撮っている。この灯台ももっとアピールしたらどうか。また灯台に電気をつけてくれるといいと思う。
- ・ アウトレットのところにスーパーを作っているが、駐車場は町営駐車場をあてにしているのではないか。

- ・高速を利用するとつくばや土浦に1時間程度でいけるが、大洗駅あたりから高速バスができると大洗からつくば等へ通勤したり、つくば等から大洗へ通勤したりできるのではないか。

商工観光課長：

- ・神磯の鳥居はインスタのスポットとして海外からも観光客が来ているが、その反面、磯に乗る行為は危険であるためその対応に苦慮している。灯台については夜にライトアップされている。また、サンビーチでもウユニ塩湖のようなリフレクションの写真が取れるため観光客が増えているので、併せてPRを行っていきたい。

まちづくり推進課長：

- ・ご指摘はシーサイドステーションのことかと思うが、当該施設については、施設前の土地等を駐車場として利用する旨事業者から届け出等がされているので、町営駐車場をあてにしていることはないと認識している。
- ・つくば土浦方面への高速バスについては、運行するかどうかはニーズ等を踏まえたうえでの事業者の経営判断となる。機会があるときにこちらから事業者に話を聞かせてもらいたいと思う。

〔補足：シーサイドステーションの駐車場の件については、大洗わくわく科学館の水戸鉾田佐原線を挟んだ反対側の県有地も借りているそうです。〕

- 町民：
- ・町長からひたちなかと大洗で品質の高いマリンリゾートを作るといってお話があったが、以前コースタルリゾート計画というものがあり、結局何もやらずに終わったと思う。今回それよりも小さな規模で大洗とひたちなかで施策を行ってもらえるのだと思うが、現状で町としてリゾートをどのようにするつもりか具体的に教えていただきたい。
 - ・モーターパラグライダーをサンビーチで行っている人いる。港湾なのでパラグライダーは禁止のはずだが、町では把握しているのか。以前、パラグライダーから落下した人を見た。そのときは何事もなかったがそのようなサンビーチの利用は危険だと思う。町としてもなんらかの防止策を講じたほうがよいのではないか。
 - ・大洗は観光で食べている町であるのに依然として暴走族がいる。大洗海の大学の総会に参加した際も、キャンプ場としてのロケーションは最高だが、夜の騒音で眠れなかったという苦情があったと聞いた。県警と一緒に対策をし、少しでも減らしていけるように考えてもらいたい。

町長： ・これまで国の施策のなかでコースタルリゾート計画も含めて色々と展開したが、バブルが崩壊した結果計画が実らずに終わってしまった。今回は国の施策ではなく地方創生であり、地方が考えた施策に国の交付金が当てられる仕組みとなっている。ひたちなかと大洗をマリンリゾートエリアとし、重点的に環境整備をしようという構想は県から起こされた構想である。現在の大洗では、観光客の受け入れ施設等は整っているが内容を濃くしていく必要があり、若い人たちも楽しめるような環境を整備していきたいと考えている。たたき台は示されてきているので、これからは魅力的な大洗を作るためにみんなでたたき台をたたき、よりよい整備計画を作るという取り組みに入っていくところである。大洗サンビーチは70haもある東日本最大級の海浜であり、この資源だけでも誇れ、人を呼ぶことができる。こうした環境を強めていくことが大事であり、県・ひたちなか・大洗が一体となって整備に入っていくということをご理解いただきたい。

商工観光課長：

・パラグライダーの件について、商工観光課でもそのように利用されている状況は把握している。海水浴場として町が運営している期間についてはパラグライダー等の利用は厳しく制限している。ただ、海水浴場設置期間以外の町として占有を受けていない期間の管理については、県につないで対応をお願いすることになるため、横の連携を密にしていきたい。

町長： ・暴走族は一時期よりは少なくなったと思う。県警に要請をし、暴走族対策の特別区域として取り組んでもらっており、正月やゴールデンウィークには大規模な取締りを行ってきた。大洗は県警と一緒に、対策に力を入れていると暴走族が感じるような取り組みを強めてきた。最近では以前より爆音が聞こえないように思うがまだ時折暴走族はいるので、それを踏まえ一層力を入れて大洗の観光リゾートとしての質を高めていきたいと思う。

副町長： ・ひたちなか大洗のマリンリゾート構想について、7月2日に県の企画部長、ひたちなかと大洗の副市町長、商工会長や観光協会会長等7名で委員会を立ち上げ、20名ほどのオブザーバーも参加して第1回目の委員会が開催された。その際、具体的に何をやるかという話のなかで、スマホやテレビ等で流せるような共通のPRをしていければいいという話や、観光地で進んでいるレンタル自転車の乗り捨てをひたちなか・大洗間で相互にできるような整備したいといった話がでた。委員会はまだ立ち上がったばかりのため、

オブザーバーなどから色々な意見をもらいながら進めていくことになり、この先も具体的に様々な意見が出てくるだろう。また、この委員会では県が中心となってPRをし、営業の場も設けられるため営業をどんどん仕掛けることもできる。そのため今回のリゾート推進協議会については、県を中心として具体性は担保しながら続けていくなかで、できるものは営業をし、相手に当たっていかうという話になっている。県の後ろ盾があるため、かなり具体性が見えてくると思う。

町民： ・大洗駅の改修について、駅にエスカレーターはつかないのか。

まちづくり推進課長：

- ・大洗駅のエスカレーターやエレベーターの必要性については鹿島臨海鉄道でも認識しており、車椅子の方などを考えるとエレベーターの設置が望まれると思われる。しかし、設置費用やランニングコストもかかるため、安価にできる方法はないか鹿島臨海鉄道で検討しているが、足が踏み出せない状況である。国のバリアフリー関係の補助金では、利用者数が3,000名という基準があるが大洗町は2,000名程度のため基本的に補助対象となっていない。鹿島臨海鉄道は高架で高低差もあるため、補助基準の要件緩和について町でも要望活動するなど動き出しができるようにしていきたい。すぐに設置出来る状況にないことはご理解いただきたい。

15：45閉会